

## 達谷窟(岩手県西磐井郡平泉町)

801年に征夷大將軍の坂上田村麻呂が、ここ達谷窟を拠点としていたエミシ(蝦夷)を討伐した記念に、毘沙門天を祀った達谷窟毘沙門堂を建立したと云う



## 達谷窟

たっこくのいわや

Takkoku no Iwaya

平泉中心部の南西約6km、太田川北岸の東西長約150m、最大標高差約35mの断崖に掘られた洞窟が達谷窟です。窟の前面には懸崖造の毘沙門堂があり、南面して中島を伴う池(蝦蟇ヶ池)が配置されます。また、毘沙門堂西側の岩面に磨崖仏が刻まれています。

『吾妻鏡』によると、源頼朝が奥州藤原氏を滅ぼして鎌倉へ帰還のおり、ここに立ち寄り別当寺の達谷西光寺の寺領を安堵したことが記されています。

発掘調査の結果、平泉最盛期(12世紀)にはすでに毘沙門堂の前面に池が存在していたことが確認されています。

平泉はもとより、東北地方における仏教信仰の実態を理解する上でも欠くことのできない重要な遺跡として、史跡に指定されています。

Takkoku no Iwaya is 6kms southwest of Hirazumi, on the north bank of the Ota River. The Bishamondō (Bishamon Hall) stands on tall wooden supports across the opening of a cave which is 150m wide and 35m high. The natural cave has been enlarged further back into the cliff. To the south, in front of the Bishamondō is the Gamagaike (Toad Pond) with a small central island. To the west of the hall is the Ganmen Daibutsu, a large Buddha that has been carved into the cliff-face.

According to Azuma Kagami, (the official history of the Kamakura Shogunate), Minamoto no Yoritomo visited Takkoku no Iwaya on his way back to Kamakura after defeating the Ōshū Fujiwara, and he pledged the security of the lands belonging to Seikoji, the head temple of Takkoku no Iwaya.

Excavation and research have confirmed that the pond existed in the 12th century heyday of Hirazumi. Because of these important remains that help the understanding of Buddhist belief in both Hirazumi and Tōhoku, Takkoku no Iwaya was designated a Historic Site.

ここに達谷窟毘沙門堂がある



鳥居は三つある



「達谷靈窟」と記された扁額/右手に説明板がある





鳥とり

居い

「一之鳥居八石之鳥居、二之鳥居八丹之鳥居、三之鳥居八杉之鳥居」と称され、古くから参道にあった。三之鳥居は明治初期に、二之鳥居は昭和三十年に失われたが、平成十年に再建された。二之鳥居、三之鳥居ともに、他には見られない特殊な形式を今に伝えている。一之鳥居は「ひびつひらつ、とくち、せいのじゃう」という達谷村の三人の石工により達谷石を用いて江戸時代に建立されたものであ

のである。

右手が毘沙門堂、左手は蝦蟇ヶ池辯天堂

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



中古文学の故郷



# 達谷窟と田村信仰

征夷大將軍坂上田村麿公東征の靈蹟で殺生禁斷地、國指定史蹟達谷窟に  
 關する最古の記録は『吾妻鏡』文治五年（一一八九）九月廿八日の条であ  
 り、これ以降『田村三代記』『諏訪大明神繪詞』『鹿嶋合戦』『神道集』等  
 の中古文学や藝能の他、日本國中の社寺縁起にこの窟の名が記され、古來  
 奥羽で最も著名な窟であり、また窟毘沙門堂は岩窟に堂宇を構える窟堂と  
 しては、今なほ日本一の規模を誇る大堂であります。

御創建の大將軍に於かれましては『公卿補任』に「毘沙門天ノ化身來タリ  
 テ我國ヲ護ル」と記されてある様に、大將軍は神であり、その本地を毘沙  
 門天と見做す田村信仰發祥の靈場として、貴賤の尊崇を集めて参りました。  
 窟毘沙門堂内陣の扉の奥に祀られる御本尊様は、慈覺大師が毘沙門天の  
 化現である田村麿公の御貌を模して刻し給ふ伎の秘佛であります。それ故  
 に毘沙門様に抱かれた床下の廣い空間は往古より守護不入とされ、諸國行  
 脚の遊行の聖や山伏、乞食等の憩める安住の宿として、また合戦に敗れた  
 武士が暫し身を隠し、而る後生まれ變はつて往く再生の場として、さらに  
 は御先祖様の靈魂があのかから歸り來て集ふ聖なる所として、現在も人の  
 立ち入る事を許さぬ禁足地とされており、その信仰は「現古で毘沙門様を  
 拝めば災に遭ふことなく、極樂往生の際は毘沙門様が擁護し給ふ」と言は  
 れる程、隆盛を極めました。

三つの鳥居を潜り達谷窟毘沙門堂の御神域及び別當の達谷西光寺境内に  
 座す諸佛諸神に御詣りすれば、延暦廿年の創建以來、今も變はらぬ田村信  
 仰の佇むを、きつと懐かしく感じられることでせう。

南無大慈大悲多門天王

南無田村大將軍

平成十八年正月

合掌

別當



これが毘沙門堂







## 達谷窟毘沙門堂縁起

約千二百年の昔、悪路王・赤頭・高丸等の蝦夷がこの窟に塞を構え、良民を苦しめ女子供を掠める等乱暴な振舞が多く、国府もこれを抑える事が出来なくなつた。そこで人皇五十代桓武天皇は坂上田村麿公を征夷大將軍に命じ、蝦夷征伐の勅を下された。対する悪路王等は達谷窟より三千余の賊徒を率い駿河国清見関まで進んだが、大將軍が京を発するの報を聞くと、武威を恐れ窟に引き返し守を固めた。延暦二十年(八〇一年)大將軍は窟に籠る蝦夷を激戦の末打ち破り、悪路王・赤頭・高丸の首を刎ね、遂に蝦夷を平定した。大將軍は、戦勝は毘沙門天の御加護と感じ、その御礼に京の清水の舞台邊を模ねて九間四面の精舎を建て、百八躰の毘沙門天を祀り、国を鎮める祈願所として窟毘沙門堂と名付けた。そして延暦二十一年(八〇二年)には別當寺として達谷西光寺を創建し、奥真人を開基として東西三十余里、南北二十余里の広大な寺領を定めた。降つて前九年後三年の役の折には源頼義公・義家公が戦勝祈願の為寺領を寄進し、奥州藤原氏初代清衡公・二代基衡公が七堂伽藍を建立したと伝えられる。文治五年(一一八九年)源頼朝公が奥州合戦の帰路、毘沙門堂に参詣され、その模様を「吾妻鏡」に記されている。中世には七郡の太守葛西家の尊崇厚く、延徳二年(一四九〇年)の大火で焼失するが、直ちに再建された。戦国時代には東山の長坂家より別當が赴き、多くの衆徒を擁したが、天正の兵火に罹り、岩に守られた毘沙門堂を除き、塔堂樓門悉く焼失した。慶長二十年(一六一五年)伊達政宗公により毘沙門堂は建て直され、爾来伊達家の祈願寺として寺領を寄進されていた。

昭和二十一年隣家から出火。御本尊以下二十数躰を救い出したが毘沙門堂は全焼した。昭和三十六年に再建された現堂は創建以来五代目となる。内陣の奥に慶長二十年伊達家寄進の厨子を安置し、慈覺大師作と伝える御本尊・吉祥天・善膩子童子を秘佛として収める。次の開扉は平成五十四年となる。

毘沙門天は虎年の守本尊である。また軍神であり悪鬼を拂い、財宝・官位・智慧・寿命等の福を招き、諸々の願が叶うとされ、毘沙門講を結び参詣する人々が後を断たない。毎月三日の月例祭、春秋の大祭を始め多くの祭事があるが、特に正月一日から八日迄行われる修正會は慈覺大師から恵海大和尚が伝え、千余年も続く神事である。

蝦蟆ヶ池越しに辯天堂を見たところ



## がまが いけべんてんどう 蝦蟆ヶ池辯天堂

昔、満面の水を湛へてみた達谷川や北上川を美しい浮嶋が行き来するのを、奥羽巡錫の慈覺大師は、五色の蝦蟆の姿である貧乏を齎す貪欲神が化けてみると見破った。大師は嶋を捕らへて窟毘沙門堂の前まで引きぬ、再び逃げ出さぬやうに一間四面の堂宇を建立し、蝦蟆を降伏する白蛇、即ち宇賀神王を冠に頂く八肘の辯才天女を自ら刻して祀り、蝦蟆ヶ池辯天堂と名付けたと傳へられる。昭和六十年の調査で蝦蟆ヶ池舊護岸から平安末期の土器が大量に發掘されてゐる。現堂は、昭和廿一年の大火で焼失し、昭和四十六年再建の堂が狭小で、神事の執行に甚だ不便であつたため、平成廿五年癸巳の歳に、元祿再建時の舊規に倣ひ、脇士の十五童子の内の九躰と共に、御修覆なつたものである。辯天様は巳年守本尊。昔から「薬師、辯天には錢上げて拜め」といはれ、金運商売の神で商家の信仰が厚い。智恵の神、技藝の神。そして、「生けるが如し」と賞される美しい御姿は美人の譬とされたが、恪氣な天女の故、仲良き男女は共に詣らぬ習しがある。また、蝦蟆ヶ池は神の池で、こゝに棲む生きとし生けるものは古來から辯天様の御使であり、特にも蛇はその最も尊いものとされてゐる。

正面が毘沙門堂、左手が辯天堂

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



辯天堂を見たところ








毘沙門堂を見たところ






その左手を見ると岩面に大佛の顔が彫られている/正面右上





岩面大佛

毘沙門堂西方の約そ十丈(約三十三m)にも及ぶ大岩壁に刻まれた磨崖佛は、前九年後三年の役で亡くなった敵味方の諸霊を供養する為に陸奥守源義家公が馬上より弓弰を以って彫り付けたと伝えられている。この大佛は高さ五十五尺(約十六・五m)、顔の長さ十二尺(約三・六m)肩巾三十三尺(約九・九m) 全国で五指に入る大像で、「北限の磨崖佛」として名高い。元録九年(一六九六年)の記録に「大日之尊體」(岩大日)その後岩大佛と記され、現在は岩面大佛と呼ばれている。

猶、尊名は岩大日の記録から大日如来とする考えもあるが、拙寺では昔から阿彌陀佛の名号を唱えており、戦死者追善の伝説からも阿彌陀如来とするのが正しいと思われる。その証左として岩面大佛の下に立つ「文保の古碑」(二二二七年)には阿彌陀の種子である「」が刻まれている。明治二十九年に胸から下が地震により崩落し、現在も摩滅が進んでおり早急な保護が叫ばれている。

アップで見たところ/これが「北限の磨崖仏」といわれる岩面大佛

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



そこから右手に毘沙門堂と辯天堂を見たところ



毘沙門堂をアップで見たところ



それでは毘沙門堂の内部に入ってみよう

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



毘沙門堂から下へ降りる

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



振り返って毘沙門堂を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)









## 姫待不動堂

悪路王等は京から攫って来た姫君を窟上流の「籠姫」に閉ち込め、「櫻野」で暫々花見を楽しんだ。逃げようとする姫君を待ち伏せした瀧を人々は「姫待瀧」と呼び、再び逃げ出せぬよう姫君の黒髪を見せしめに切り、その髪を掛けた石を「髻石」と云う。

姫待不動尊は智証大師が達谷西光寺の飛地境内である姫待瀧の本尊として祀ったものを、藤原基衡公が再建した。

しかし年月を経て堂宇の腐朽が著しい為、寛政元年（一七八九年）に当地に移された。桂材の一木彫で全国でも希なる大師様不動の大像である。製作年代は平安後期で、岩手県有形文化財に指定されている。

西歳の守本尊として名高く、また宮城県栗原の信者が生涯一度の大願を掛けに参拝する習が現在も続いている。


当地では「火之神様」と呼ばれ、火伏不動尊として信仰される他、眼病を治す御不動様として閻伽堂の水で眼を洗う習がある。猶、不動尊膝前に祀られる獅子頭は向って右が室町時代、左が江戸時代の作で達谷村の権現舞に使われたものである。

姫待不動尊と記された扁額



こちらは鐘楼/手前に説明板が立っている





鐘樓

鹿毘沙門堂、鹿島社と共に慶長二十年（一六一五年）の建立と伝える。

江戸時代には伊達藩が毘沙門堂と共に屋根の葺き替えを行っていた事が記録に残る。

かつては板葺で百二十貫（約四五〇Kg）の洪鐘を吊っていたが、昭和十九年に戦時供出。

昭和五十八年に百五十貫（約五六三Kg）の洪鐘を新し。

平成二十七年に御修葺を了え、面目を一新した。今五ツ（午前八時、辰刻）九ツ（正午、午刻）七ツ（午後四時、申刻）に昔ながらの打鐘で時報を報せている。

鐘楼堂と記された標柱が立つ



こな塩梅



こちらは達谷西光寺の金堂







# 金堂

古くは講堂とも呼ばれ、延暦二十一年（八〇二年）に達谷川対岸の谷地田に建てられたが延徳二年（一四九〇年）の大火で焼失した。江戸時代には現在地に建てられた客殿が金堂の役割を果していたが、明治初年に排佛棄釋で破棄された。昭和六十二年に再建に着手し、平成七年に完成した。桁行五間梁間六間の大で、後世に技を伝える為、昔ながらの工法を用いて作られた。本尊は眞鏡山上の神木の松で刻まれた四尺（約一一〇cm）の薬師如来である。

説明板に「昔ながらの工法を用いて作られた」とある



部戸となっている



参考ホームページ

<http://www.iwayabetto.com/mysite1/bisyamondou.html>

<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/173935>

<https://traveltoku.com/iwaya-hi/>

<http://www.do-be.jp/hiraizumi/bishamondo.html>

<https://japanmystery.com/iwate/takkoku.html>

<https://wondertrip.jp/1009891/>

<http://www.uraken.net/rail/travel-urabe520.html>

<http://teratabi.com/travel/iwate/takkokunoiwaya/>

